
 学 会 記 事

第42回新潟消化器病同好会

日 時 昭和60年7月6日(土)
午後1時30分より
会 場 新潟厚生年金会館

一 般 演 題

- 1) 早期胆嚢癌症例の検討
—新潟県内における胆嚢癌功除例の
分析より—

大村 康夫・篠田 主
土屋 嘉昭・福田 喜一 (新潟大学第一外科)
白井 良夫・川口 英弘
吉田 奎介・武藤 輝一
内田 克之・渡辺 英伸 (同 第一病理)

目的・方法

早期胆嚢癌の診断の手がかりをつかむことを目的として、1982、1983年に新潟県内で切除され、病理学的検討が充分行なわれた胆嚢癌症例76例(早期癌20例, 進行癌56例)について検討した。

結 果

性・年齢分布: 早期癌の男女比は1:3で年齢別分布は70才代にピークがみられ, 進行癌も同様であった。初発症状: 腹痛を訴えるものがほとんどで早期癌無石例でも80%が腹痛を訴えた。術前診断: 画像診断率はきわめて悪く正診例は早期癌では3例(15%)で他は胆石症13例(55%), 胆嚢炎2例, ポリプ1例, 胆嚢癌1例であった。肉眼型: 表面型が70%で大きさは0.2~12cm(最大径)であった。症例: 早期癌無石例で腹痛を訴えた症例では胆嚢炎を合併することが多かった。うち2例(隆起型1例, 表面型1例)を呈示する。

考 案

早期胆嚢癌の70%が表面型で画像による診断は困難であり, 60才以上の胆石症, 胆嚢炎では特に注意深い検査が必要である。

- 2) 早期胆嚢癌の形態学的特徴

鬼島 宏・石原 法子 (新潟大学第一病理)
渡辺 英伸
白井 良夫・吉田 奎介 (同 第一外科)

良好な予後の期待できる早期胆嚢癌の形態学的特徴を検討した,

定義・材料他

癌の深達度が固有筋層までに留まるもの, および Rokitsansky-Aschoff 洞内に留まるものを早期胆嚢癌と定義した。検索材料は, 自験した早期胆嚢癌36症例45病変であり, すべて外科的切除材料である。今回定義した早期胆嚢癌では, 36症例中23症例でリンパ節の検索が行われたが, 癌のリンパ節転移はいずれも認められなかった。また脈管侵襲や神経浸潤も全症例に認められなかった。

成 績

① 早期胆嚢癌の肉眼型は, 隆起型26.7%(12/45), 表面型73.3%(33/45)であり, 陥凹型はみられなかった。② 早期胆嚢癌の表面粘膜には, 腺腫内癌および純粋Ⅱb型癌を除く全例で, 密な(微細)乳頭状もしくは密な顆粒状構造が認められた。

結 語

早期胆嚢癌は特徴的粘膜像を呈することから, これらを捕えることにより胆嚢癌の診断も可能と考えられる。

- 3) 同一胆嚢内に独立した21個の癌が
認められた1例

西條 康夫・岡田 節朗 (新潟勤労者医療協
羽賀 正人・安達 哲夫 (会下越病院内科)
山川 良一
五十嵐 修・時光 昭二 (同 外科)
高橋 常彦
鬼島 宏・渡辺 英伸 (新潟大学第一病理)

症例 43才, 女性。主訴, 上腹部痛。12月8日上腹部痛出現, 増強するため9日当院入院。エコー, CTで胆嚢結石, 肝内胆管拡張, 総胆管拡張を認め, 急性化膿性胆管炎の診断で治療を行った。1月10日, 胆嚢結石, 総胆管結石の術前診断で単純胆嚢摘出術, 総胆管切開, 乳頭形成術を学った。摘出胆嚢底部に乳頭状隆起性病変があり, その周囲に小乳頭状隆起病変が散在していた。その病理組織学では, 最大の病変は漿膜下層まで浸潤している乳頭管状腺癌であった。また正常粘膜を隔てて20コの癌が独立して認められ, 癌周囲への表層拡大はなく, 化生粘膜もほとんど認められなかった。本例は単純胆嚢摘出術では不充分であるため, 今後再手術を予定している。

- 4) 当院における胆嚢癌摘除例の検討

広田 正樹・福田 稔 (白根健生病院外科)
加藤 英雄

過去5年間で当院で摘除可能であった胆嚢癌症例は13